

第3回 日本臨床薬理学会 中国・四国地方会を終えて

鳥取大学／国立病院機構米子医療センター

長谷川 純一

会期：2018年12月15日（土）
 会場：岡山コンベンションセンター（岡山市）
 会長：長谷川 純一（鳥取大学／国立病院機構米子医療センター）
 テーマ：薬物治療のあすを考える

1. 開催概要

第3回日本臨床薬理学会中国・四国地方会を2018年12月15日（土）に岡山市で開催した。今年は第39回日本臨床薬理学会学術総会が、7月に開催された第18回国際薬理学・臨床薬理学会議（WCP2018）と同時開催であったため、例年と異なる12月開催という点で異例であった。特別に大規模な場合などを除き、一般に学会は準備の都合も含めて主催者の勤務地で開催されることが多いが、地方組織を立ち上げた際の申し合わせで、当面は中国、四国の会員が一律に集まりやすい岡山市で開催することとなっていたので、今回も岡山市内、とりわけ、アクセスに便利なJR岡山駅に直結した岡山コンベンションセンターでの開催とした。

地方会の目的の一つである学会員の輪を広げる意味で、薬学系はもちろん、医学系特に薬物治療を担う臨床医にも目を向けてもらいたいという意味で本会のテーマを「薬物治療のあすを考える」とした。第2回を参考に時間を割り振って、特別講演、シンポジウム、症例検討の3部構成とした（Table）。学術総会から間がないことや、薬剤師の多く参加する学術大会（後述）と時期を同じくしていることなどから、第2回同様一般演題は募集しなかった。

全国の地方会組織のうち会員数が180名ほどの一番少ない地方であるうえに、諸条件も重なり、参加者は69名であり、反省点が多かった。

2. 特別講演

開会最初のプログラムは鳥取大学大学院医学系研究科機能再生医科学専攻再生医療学の久留一郎教授の特別講演であった。「ユビキチン・プロテアソーム系制御の病態とドラッグ・リポジショニングへの応用」と題して、細胞のチャ

Table プログラム

特別講演	13:00~14:00
座長：楊河 宏章（徳島大学病院臨床試験管理センター）	
「ユビキチン・プロテアソーム系制御の病態とドラッグ・リポジショニングへの応用」	
演者：久留 一郎（鳥取大学大学院医学系研究科機能再生医科学専攻再生医療学部門）	
シンポジウム	14:10~15:40
座長：千堂 年昭（岡山大学病院薬剤部）	
島田 美樹（鳥取大学医学部附属病院薬剤部）	
「免疫チェックポイント阻害薬の治療効果と副作用を検証する」	
1 「癌の免疫動態の基礎」	
門脇 則光（香川大学医学部血液・免疫・呼吸器内科学）	
2 「免疫チェックポイント阻害薬の治療効果を検証する」	
阪本 智宏（鳥取大学医学部附属病院化学療法センター）	
3 「免疫チェックポイント阻害剤の副作用を検証する」	
長谷川 一将（鳥取大学医学部附属病院薬剤部）	
4 「免疫チェックポイント阻害剤に対するチーム医療に向けた取り組み」	
鍛冶園 誠（岡山大学病院薬剤部）	
症例検討会	15:50~17:20
座長及び症例提示	
長谷川 純一（鳥取大学/米子医療センター）	
原田 和博（笠岡第一病院）	

ネル等の機能性タンパク質の品質を管理しているユビキチン・プロテアソーム系（UPS）の仕組みを解説いただき、UPSの変調が種々病態に関与しており、それを制御することで治療に結びつくことなどをご講演いただいた。最も多い不整脈である心房細動に関与する心房筋のチャネルタンパク質を制御できる物質と、同等の作用を持つEPAやペブリジルが臨床濃度で効果を示すことを確認された話や、

著者連絡先：長谷川純一 国立病院機構米子医療センター 〒683-0006 鳥取県米子市車尾4-17-1

TEL：0859-33-7111 FAX：0859-34-1580 E-mail：hasegawa.junichi.cq@mail.hosp.go.jp

投稿受付2019年1月8日、掲載決定2019年1月15日

ISSN 0388-1601 Copyright：©2019 the Japanese Society of Clinical Pharmacology and Therapeutics (JSCPT)

肥大型心筋症の原因遺伝子による変異タンパク質の影響を抑制する他疾患治療薬 (Ca 拮抗薬) など、ドラッグ・リポジショニングによる新規治療薬開発などの実際をお話しいただき、聴講者からの活発な反応があった。

3. シンポジウム

島田美樹 (鳥取大学), 千堂年昭 (岡山大学) 両教授にコーディネートしていただいたテーマは「免疫チェックポイント阻害薬の治療効果と副作用を検証する」というものであった。第 37 回学術総会 (2016 年, 米子) の頃から既に大きなトピックとして取り扱ってきた免疫チェックポイント阻害薬であるが, 多くの患者を有する疾患に適応が広がるにつれ, 医療費を天文学的数字に押し上げかねない薬価問題で耳目を集めていたうえに, 本地方会の 2 カ月前に本庶佑先生のノーベル医学・生理学賞受賞が決まったことが報道され, まさに注目のテーマのシンポジウムとなった。

門脇則光氏 (香川大学医学部血液・免疫・呼吸器内科学) には, 癌の免疫動態の基礎として, 基本的な免疫の話から癌の免疫抑制環境, さらにその免疫チェックポイントの生理機能を抑制することによる副作用の可能性など時間をかけて解説いただいた。その後, 阪本智宏氏 (鳥取大学医学部附属病院化学療法センター) は免疫チェックポイント阻害薬である抗 PD-1 抗体ニボルマブとペムブロリズマブ, さらに抗 PD-L1 抗体であるアテゾリズマブ, デュルバルマブが登場しているものの, 例えば非小細胞肺癌に対する奏効率は既治療例で 20% と少ないことや, 急激な腫瘍増大の例もあること, 一方で一度奏効すると非常に長期間にわたって効果が維持できる症例もあることなどが報告された。また, 腫瘍の遺伝子変異の量や, 腫瘍浸潤リンパ球を含めた, 効果予測に有用なバイオマーカーについての解説があった。長谷川一将氏 (鳥取大学医学部附属病院薬剤部) はこれまでの癌薬物療法では見られなかった, 免疫チェックポイント阻害薬特有の免疫疾患関連副作用 (irAE: immune-related Adverse Events) について, 活性化された免疫が正常細胞に対しても過剰な反応を示すことで発現する間質性肺炎, 大腸炎, 重度の下痢, 肝炎, 1 型糖尿病, 重症筋無力症や内分泌異常などについて, その特徴や管理, 治療などについてご講演いただいた。最後に鍛治園誠氏 (岡山大学病院薬剤部) は免疫チェックポイント阻害薬を使用するうえで, QOL を維持するために irAE の発現を早期に発見し介入するために, 腫瘍内科医, 皮膚科医, 泌尿器科看護師, 呼吸器内科担当薬剤師, 腫瘍センター看護師などのワーキンググループでスクリーニングを行う取組みについて紹介された。

ノーベル賞に関連してマスメディアで一般向けの詳細な解説がなされているが, 改めて専門家からより詳細な情報提供を受けることができ, 非常に有意義な機会となった。

4. 症例検討会

フロアの参加者も一体となって症例を検討いただくために身近な問題として「高齢者におけるポリファーマシー」をテーマとした。原田和博氏 (笠岡第一病院内科) と長谷川純一を座長兼プレゼンターとした。

まず長谷川が高齢者におけるポリファーマシーの問題について基調講演を行った。現在超高齢社会であること, 加齢とともに保有疾患数が増加しポリファーマシーになりやすいこと, ポリファーマシーによる医療経済上の問題, 薬物相互作用, 誤調剤や誤服用による有害事象の増加, アドヒアランス低下などが生じることを解説。また, 処方カスケードの問題, ポリファーマシーの改善策, 診療報酬で減薬が評価されることを紹介した。次に, 機能的ディスペシアの症状の訴えから始まった処方カスケードによる高度なポリファーマシーの症例を提示し, 種々薬物による有害事象に対する安易な対症療法薬の追加が更なる病態を引き起こして問題となることを参加者とディスカッションした。

2 例目として, 原田和博氏からは非結核性抗酸菌症に対しリファンピシンが追加されたことにより, 降圧薬等の効果が著減した薬物相互作用の問題症例を提示いただいた。突然の難治性の高血圧症への薬物選択など, 対処法についてディスカッションが行われた。また, 薬物代謝酵素, 特に CYP3A4 やトランスポーターの誘導・阻害が関与する薬物相互作用について, これまでの研究の紹介や総論的解説をいただいた。

5. おわりに

偶然にも地方組織の世話人のうち, もう一人鳥取県から選出されている鳥取大学医学部附属病院薬剤部長島田美樹教授を大会長とする第 57 回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会が前月の 11 月 10 日 (土), 11 日 (日) に米子市で開催されていた。薬学系, 薬剤師の会員の方々には重なる感じであり, もし, 本地方会の岡山市での開催という縛りがなく, 合同開催ができていたら, 通常これらだけに参加しておられる方々に, 臨床薬理学会への興味を持っていただくチャンスだったのかもしれないと反省された。

今後は日本臨床薬理学会の非会員に本学会へ目を向けていただけるよう, とりわけ一般臨床医や, 薬剤師に興味を持ってもらえる内容を模索することと, 開催地周辺の参加しやすい所から重点的に非会員の参加者を募ることを期待したい。閉会のあいさつをいただいた次回会長の楊河宏章氏 (徳島大学病院臨床試験管理センター) は地元徳島での開催を予定しておられ, 上記の改善と, 臨床試験に関連した内容の充実を期待したい。